

認定書

国住指第 2034 号
令和元年 11 月 18 日

J F E 建材株式会社
代表取締役社長 久保 亮二 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：各 1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP060FL-0202
2. 認定をした構造方法等の名称
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・連続支持）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別添)

1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床(合成スラブ・連続支持)

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項目	仕様
床厚	80以上
荷重と支持間隔の関係	・支持間隔2,200以下の場合 自重を含めた全荷重13.74kN/m ² 以下 ・支持間隔2,200～3,000の場合 自重を含めた全荷重(w)×支持間隔(L)の2乗=62.01kN以下 (一般的な支持間隔と荷重を表-1に示す。)
支持	連続支持

注) 全荷重=固定荷重+積載荷重

3. 構成材料

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項目	仕様
1) デッキプレート	・規格 JIS G 3352(デッキプレート) ・厚さ 1.0、1.2、1.6 ・山高さ 50 _{±1.5} ・働き幅 300 ₋₂₊₈ 、600 ₋₂₊₈ ・形状寸法 別添-5参照 ・種類 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1)SDP1T(厚さ1.2、1.6に限る) (2)SDP1TG(厚さ1.2、1.6に限る) (3)SDP2 (4)SDP2G (5)SDP3
2) コンクリート	・種類 普通コンクリート ・呼び強度 21～45 ・厚さ デッキプレート山上から80以上

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
3 ひび割れ拡大防止用鉄筋	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)溶接金網</p> <ul style="list-style-type: none">・規 格 JIS G 3551・種 類 (イ)～(フ)のうち、いずれか一仕様とする<ul style="list-style-type: none">(イ)WFP(ロ)WFC(ハ)WFR(ニ)WFI(ホ)WFP-D(ヘ)WFC-D(ト)WFR-D(フ)WFI-D・線 径 6 以上・間 隔 150 以下×150 以下・かぶり厚さ 床上面から 30 <p>(2)鉄筋(異形鉄筋)</p> <ul style="list-style-type: none">・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117・断面寸法 D10 以上・間 隔 200 以下×200 以下・かぶり厚さ 床上面から 30

2)副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
①スペーサー	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)鉄材 ・線径, 板厚 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径, 板厚以上 ・間 隔 1000 以下 (2)セメントブロック ・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 ・間 隔 1000 以下
②梁と床版の 接合方法	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)打込み鉄 ・寸 法 $\phi 4.5$ ・間 隔 300 以下 (2)焼抜き栓溶接 ・直 径 18 以上 ・間 隔 300 以下

表-1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔(mm)	自重を含めた全荷重(kN/m ²)
2200 以下	13.74 以下
2300	11.72 以下
2400	10.76 以下
2500	9.92 以下
2600	9.17 以下
2700	8.50 以下
2800	7.90 以下
2900	7.37 以下
3000	6.89 以下

注) 支持間隔が表の中間の値の場合は $WL^2=62.01\text{kN}$ 以下であることを
確認すること

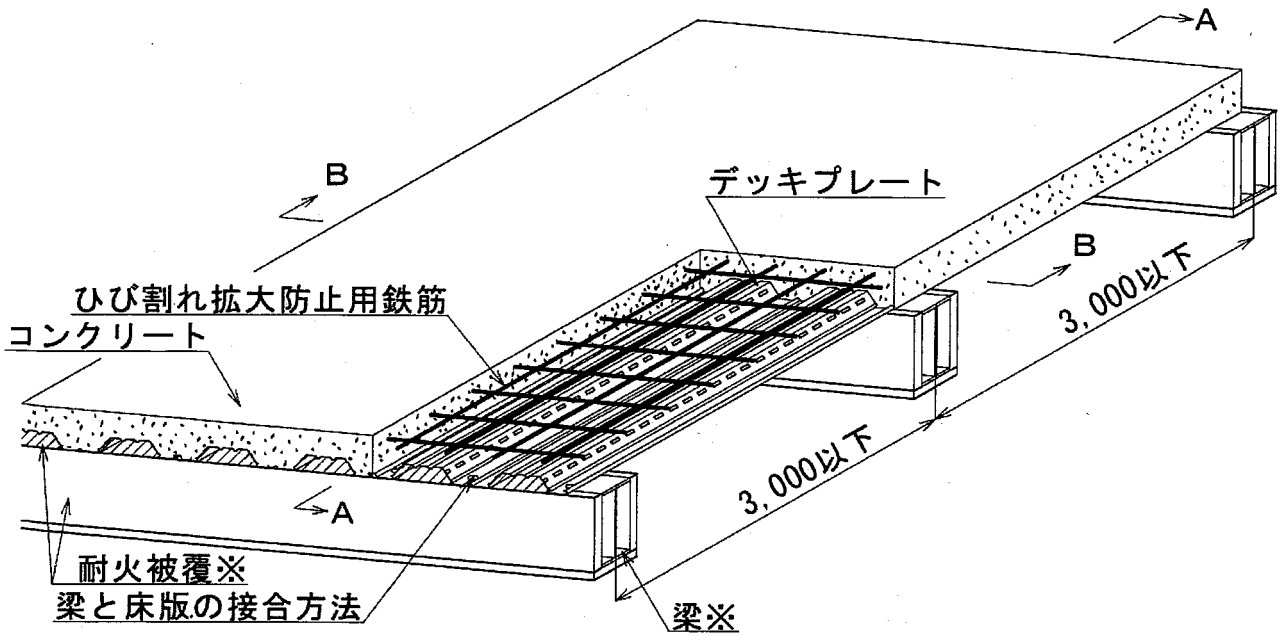
W : 自重を含めた全荷重 (kN/m²)

L : 支持間隔 (m)

4. 構造説明図

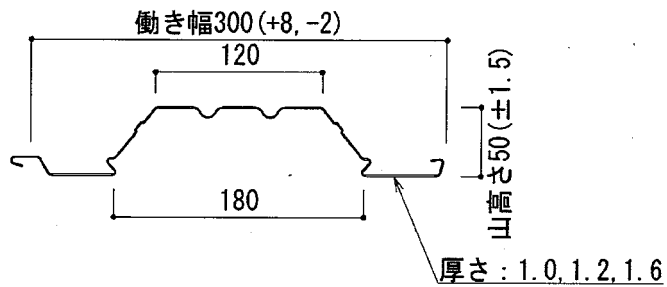
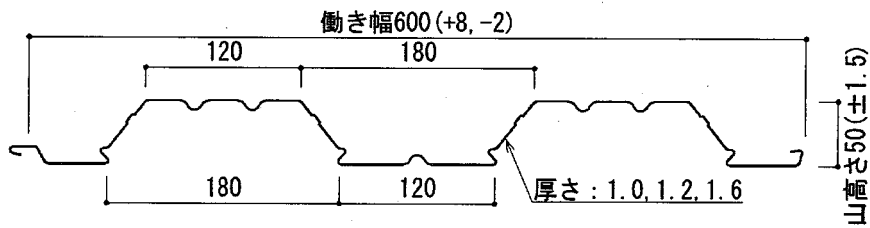
[透視図]

(寸法単位：mm)



[デッキプレートの形状・寸法]

(寸法単位：mm)

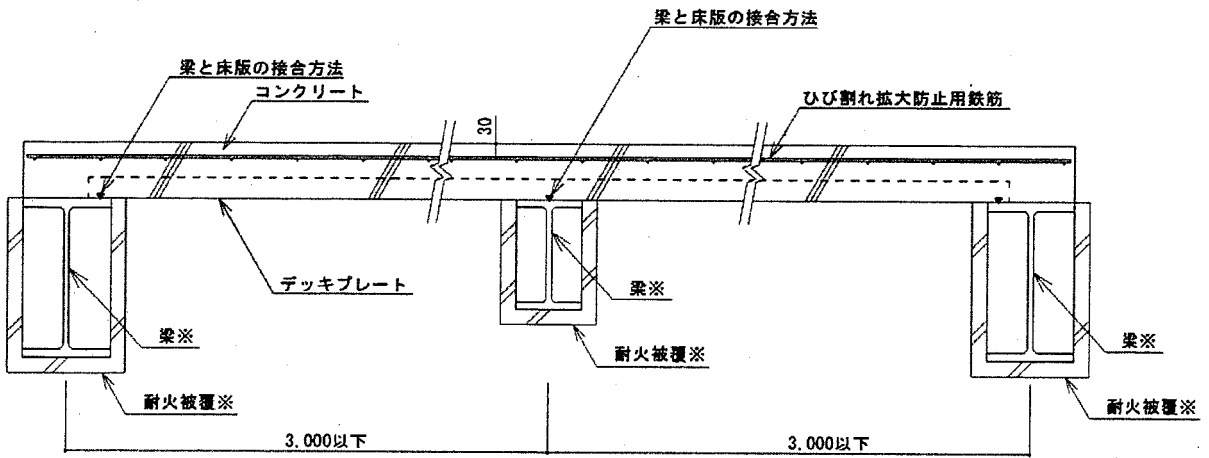


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

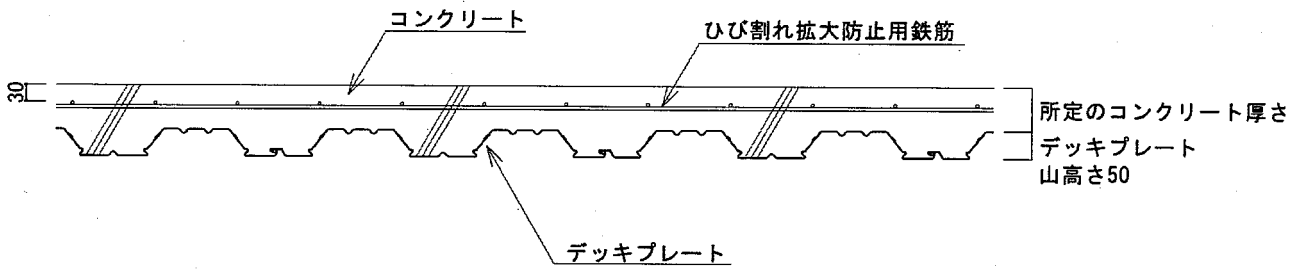
※：本評価内容に含まない

[断面図]

(寸法単位：mm)



A-A 断面図



B-B 断面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない

5. 施工方法等

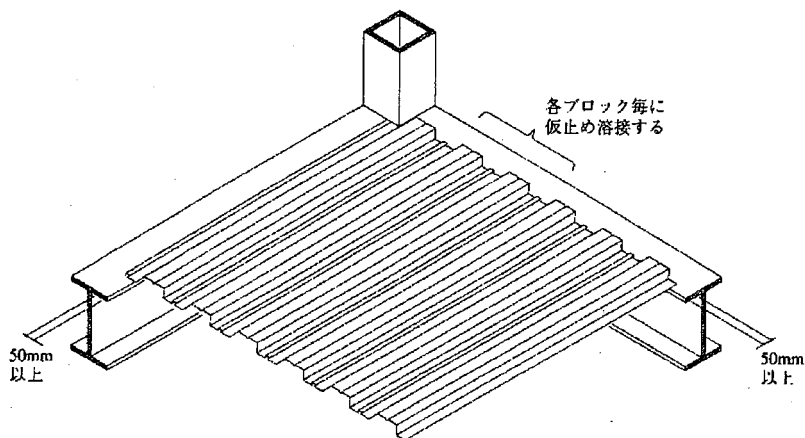
<施工図>

4. 構造説明図と同じ

<施工手順>

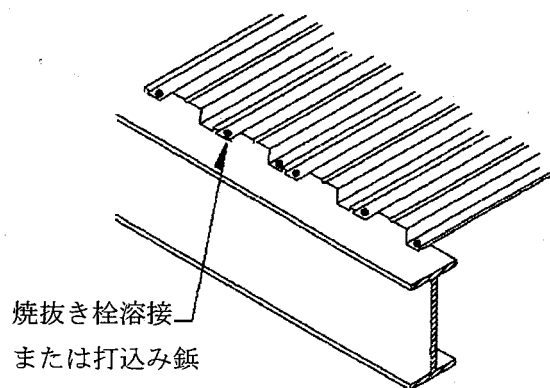
1) デッキプレートの敷込み

支持梁の墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数間隔(5~10枚)毎に仮止め溶接する。



2) 合成スラブと梁との接合

合成スラブと鉄骨梁およびデッキプレートと鉄骨梁とは、焼抜き栓溶接または打込み鉚で結合する。

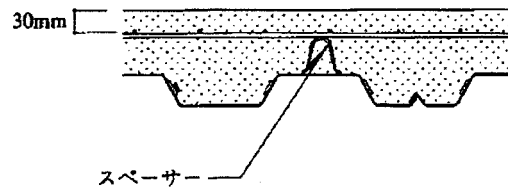


3) デッキプレート相互の接合

デッキプレート相互の接合は、嵌合・溶接・ビス等により構造上・耐火上有効に行う。

4) ひび割れ拡大防止用鉄筋の設置

溶接金網はスラブ上面より 30mm のかぶり厚さを確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。継手は原則としてデッキプレート中間梁上以外に設ける。スペーサーは 1.0m 以下のピッチで用いる。異形鉄筋を用いる場合は D10 以上をタテ、ヨコ間隔 200mm 以下で、スラブ上面より 30mm のかぶり厚を確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)に準じて、特記(例えば、構造評定や性能証明を取得した工法等)によるか、または、JASS5 の記載例による。



5) コンクリート打設

溶接金網または異形鉄筋が移動しないように注意しながら、コンクリートを不陸なく打ち込む。コンクリートの施工については「JASS5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)に準じて行う。

6) 仕上げ

原則としてコンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

7) 養生

コンクリート打込み後の養生は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)に準じて行うが、初期には湿潤養生を行い、十分な養生期間をとるよう留意する。

8) 梁の耐火被覆

梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて梁が露出しないように適切な耐火被覆を施す。